

Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症検査における固形便の検証

◎佐原 彩夏¹⁾、金井 勝太¹⁾、廣原 洋子¹⁾、林 久美¹⁾、清水 里美¹⁾、小川 和子¹⁾
県立広島病院 臨床研究検査科¹⁾

【はじめに】*Clostridioides (Clostridium) difficile* 検査では、診療報酬算定基準の一つに「ブリストル便性状スケール (Bristol stool Scale : BS) 5 以上の下痢症状があること」と定められている。しかし、当院では BS5 未満に相当する固形便なども全てイムノクロマト (IC) 法や NAAT 法を実施している。2021 年 3 月 22 日に Xpert *C.difficile* 「セフィエド」を導入後の固形便での検査の有用性について検証した。

【対象と方法】調査対象期間は 2021 年 3 月 22 日から 2023 年 3 月 31 日までとした。*C.difficile* 診断を目的として提出された便検体 1104 件の便性状および固形便で IC 法と NAAT 法が実施されたものについて調査した。IC 法は TECHLAB C. DIFF QUIK CHEK コンプリートキット (コージンバイオ (株))、NAAT 法は GeneXpert (ベックマン・コールター (株)) にて Xpert *C.difficile* 「セフィエド」を使用し測定した。

【結果】対象検体 1104 件のうち、下痢便 (軟便、下痢便、水様便) は 859 件提出され全体の 77.8%、固形便は 70 件で 6.3%、腸洗浄 (便汁) や綿棒採取、少量のため性状が不

明のものが 175 件で 15.9%であった。固形便 70 件の結果内訳は *C.difficile* 抗原 (glutamate dehydrogenase ; GDH) 陰性 toxin 陰性が 67 件、GDH 陽性 toxin 陽性が 1 件、GDH 陽性 toxin 陰性が 2 件であった。GDH 陽性 toxin 陰性となった 2 件を GeneXpert で測定した結果、toxin B 陽性 1 件、toxin B 陰性 1 件となった。固形便で toxin 陽性となった 2 名の患者は *C.difficile* 腸炎による下痢症状か判断できなかったものや、*C.difficile* 腸炎の治療の必要がないと判断されたものであった。

【まとめ】*C.difficile* 診断を目的として提出された固形便の検査は、陰性および検査が治療に影響を与えるものではなかったことから、コスト削減や業務改善の点からも適正な検査に向けて臨床と協力して改善していく必要がある。

連絡先 : 082-254-1818 (内線 1304)

各種薬剤感受性測定法による *Acinetobacter* spp. に対するアミノグリコシドの MIC

◎有馬 由美子¹⁾
地域医療支援病院 オープンシステム徳山医師会病院¹⁾

【目的】 当院では薬剤感受性測定に VITEK-2 を使用しているが、添付文書に *Acinetobacter baumannii* に対するアミカシンの結果は、報告前に他法による検査を実施してくださいと記載されている。五類感染症全数把握である薬剤耐性アシネトバクター感染症を正しく判定するためにもアミカシンの感受性は重要であり、*A. baumannii* を含む *Acinetobacter* spp. に対するアミカシンおよび同じアミノグリコシド系のトブラマイシンについて、VITEK-2 と標準法の結果を比較したので報告する。

【方法】 ひびき臨床微生物研究会共同研究として 2003 年以降に収集された *A. baumannii* 74 株、*A. pittii* 12 株、*A. bereziniae* 4 株、*A. lwoffii* 3 株、その他 *Acinetobacter* spp. 7 株の計 100 株を用いた。薬剤感受性測定は VITEK-2(グラム陰性桿菌用薬剤感受性測定カード AST-N228)、寒天平板希釈法 (AD 法)、微量液体希釈法 (MD 法)、ディスク拡散法 (Disk 法) の 4 つの感受性測定を実施した。

【結果】 MD 法の結果は、R 39 株、I 4 株、S 57 株であった。R と判定された 39 株は、AD 法では、R 37 株、I 2 株、

Disk 法 R 38 株、I 1 株であり、R が S と判定される Very Major Error(VME)となる株はなかったが、VITEK-2 では、R 18 株、I 3 株、S 18 株であり、VME が 18%存在した。MD 法で S と判定された 57 株は、AD 法で S 55 株、I 2 株、Disk 法 S 55 株、I 2 株、VITEK-2 57 株すべて S であり、VME となる株はなかった。VME となった菌種は、*A. baumannii* 10 株、*A. pittii* 6 株、*A. lwoffii* 2 株であった。トブラマイシンについては、MD 法で R と判定された 46 株中、VITEK-2 で S と判定された株が 9 株存在した。

【結語】 VITEK-2 では、*A. baumannii* 以外の *Acinetobacter* spp. でも VME が見られ、トブラマイシンでも VME となる株が存在したことにより、VITEK-2 で *Acinetobacter* spp. のアミノグリコシド系の感受性が S と判定された場合は、ディスク拡散法などで測定し、I または R となった場合は MIC を削除し、ディスク拡散法などのカテゴリーを報告する必要がある。

連絡先 徳山医師会病院細菌検査室

TEL 0834-32-5297

Haemophilus influenzae におけるドライプレート栄研 DP44 および IA01 MIC Pro の性能評価

◎池田 光泰¹⁾、平井 未来¹⁾、池部 晃司¹⁾、福岡 達仁¹⁾
広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院¹⁾

【目的】本邦の*H. influenzae*は欧米と比較してβ-ラクタマーゼ非産生ABPC耐性株の分離率が高いことが特徴であり、適切な抗菌薬選択や耐性菌検出のために高精度の薬剤感受性試験が求められる。今回、ドライプレート‘栄研’DP44（栄研化学、以下DP44法）と微生物感受性分析装置IA01 MIC Pro（栄研化学）を当院に導入するにあたり、現行のMICroFAST Panel Type 6J（ベックマン・コールター、以下6J法）との比較検討およびIA01 MIC Proの性能評価を実施した。

【対象および方法】2018年12月～2023年5月に臨床検体より分離された*H. influenzae* 64株を対象とした。薬剤感受性測定用培地として、6J法はHTM broth、DP44法はストレプト・ヘモサプリメント添加MHBを使用した。それぞれの薬剤パネルを35℃・24時間大気培養後、目視判定を行いMIC値±1管差一致率とカテゴリー一致率を比較した。また、DP44法で培養後、目視判定を対照法としてIA01 MIC Proを使用した機器判定のMIC値完全一致率を算出した。

【結果】DP44法と6J法におけるMIC値±1管差一致率とカテ

ゴリー一致率はそれぞれABPC：92.2%/82.8%、SBT/ABPC：98.4%/87.5%、CVA/AMPC：92.7%/70.7%、CTRX：100%/100%、LVFX：100%/100%であった。DP44法における目視判定と機器判定のMIC値完全一致率はペニシリン系：71.9～79.7%、セフェム系：84.4～100%、キノロン系：100%であり、目視判定は機器判定に比べて若干耐性傾向に判定された。

【考察】DP44法の*H. influenzae*の薬剤感受性試験におけるMIC値±1管差一致率は6J法と良好な一致率を示した。またIA01 MIC Proを使用した機器判定は目視判定と概ね良好な一致率を示したが、一部の薬剤においては目視判定と比較して感性傾向に判定されるため注意を要する。IA01 MIC Proを用いた薬剤感受性試験の判定を自動で行うことは、日常業務の効率化と測定する技師間差の低減が期待される。

連絡先：0829-36-3111（内線 2247）